

【高等学校用】

令和7年度学校評価 結果・学校関係者評価

学校名	佐賀県立佐賀北高等学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路実現に向けて、生徒がタイムマネジメントを行い計画的に取組む姿勢を養いたい。</li> <li>・学校の特色を生かした芸術、文化活動、スポーツなどを通じた地域貢献や交流を推進したい。</li> </ul>
2 SAGAスクール・ミッション 学校教育目標	<p>○自主自律を重んじる自由な校風の下、生徒それぞれの個性や能力、可能性を最大限に伸ばし、ウェルビーイング(自己と地域の幸福)に貢献する人材を育成する。</p> <p>○県内唯一の学科である芸術科においては、芸術の発展に寄与し、芸術の魅力を広く発信することのできる人材を育成する。</p>
4 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的、対話的で深い学びの実践による「確かな学力」の向上を図る。</li> <li>・自己分析力の向上を促し、将来を見据えた進路選択を支援する。</li> <li>・自らの進路実現に向け、主体的・計画的に学習に取り組む姿勢を養う。</li> <li>・文化・芸術やスポーツ等、学校の特色を活かした地域貢献を推進する。</li> </ul>

達成度(評価)  
A:十分達成できている C:やや不十分である  
B:おおむね達成できている D:不十分である

	アドミッション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	グラデュエーション・ポリシー
3 スクール・ポリシー	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 学業での学びを部活動に、部活動での学びを学業に生かしながら学校生活に取り組む意欲のある生徒を求めます。</li> <li>② 自由と責任を両立させ、明るく前向きに集団生活を送ることができる生徒を求めます。</li> <li>③ 失敗を恐れず挑戦することや最後まであきらめず努力する意気込みのある生徒を求めます。</li> <li>④ 創造性、国際性を身に付け、社会のリーダーとして活躍したいという意欲のある生徒を求めます。</li> <li>⑤ 感性を高め、技術を磨き、社会をクリエイトしていこうという意欲のある生徒を求めます。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 単位制のメリットを生かすとともに、ICTやアクティブラーニングを取り入れ、個別最適な学びを実現します。</li> <li>② 学校行事や部活動、生徒会活動を通して、自ら考え行動する力の育成と協働的な学びを推進します。</li> <li>③ キャリア教育を推進し、生徒それぞれの希望・能力・適性に合った進路実現を支援します。</li> <li>④ 国際交流や外部指導者による指導など、多様な価値観に触れる活動を実施・奨励します。</li> <li>⑤ 主権者教育やSDGsに関する学びを推進し、社会参画についての学びを深めます。</li> <li>⑥ 芸術科では、多様な学校独自の科目を設置し、各専攻</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①多様性を尊重し、豊かな人生を切り拓くとともに、より良い社会の形成者として、調和と協調に基づくウェルビーイング(自己と地域の幸福)の実現に貢献する人材を育成します。</li> <li>②持続可能な社会の実現に向け、様々な視点から物事を捉え、主体的に学ぶ意欲と物事に柔軟に対応する力、諦めず粘り強く取り組む姿勢を育成します。</li> <li>③多様な分野において、豊かな教養と優れた感性、高度な技術を持ち、社会や文化・芸術の発展に寄与できる人材を育成します。</li> </ol>

5 重点取組内容・成果指標 最終評価

(1)共通評価項目				最終評価		学校関係者評価		主な担当者	
重点取組	評価項目	取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	達成度(評価)	実施結果	評価		意見や提言
●学力の向上		○計画的に学習活動に取り組む姿勢の醸成	○「計画的に学習することができた」と答えた生徒が70%以上	・模擬試験を通して現状を把握し、指導のポイントを明確にする。 ・定期的に志望校調査を行い、進路検討会での目標を達成するための手だてを明確にする。 ・一定の自宅学習時間を確保させるとともに、学習時間確保のためのタイムマネジメントを行わせる。	A	・模擬試験や進路検討会を定期的に実施して、生徒の学力と進路選択の分析を行った。 ・定期考査が実施される月には学習時間調査を行い、比較対象を見える化した。生徒が自分自身の取り組み方や現状を振り返るきっかけとなった。 ・肯定的な回答をした生徒が7月から10%以上増加し74%に達し、数値目標を達成できた。	A	・学校評価アンケートで肯定的な回答をした生徒が前期から増加しており、目標も達成していることから評価できる。	進路指導部 各教科
		○他者の考えや意見を聞く機会を設定し、生徒に物事についての多様な考えを身につけさせる。	○「総合的な探究の時間や各教科で、協働的な活動の取組ができた。」と答えた生徒が70%以上	・総合的な探究の時間の意味や意義について、教職員間の共通理解を深める。 ・総合的な探究の時間の計画的な実施	A	・総合的な探究の時間に取り組む協働的な活動を通して、話す能力や聞く能力の育成に取り組むことができた。その結果、「協働的な活動の取組ができた。」と答えた生徒約が93%に達し、数値目標を達成できた。	A	・今後も多様な考えに耳を傾け、自己成長していくよう取組みを継続していただきたい。	進路指導部 各学年
●心の教育		●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「学校は、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動を行っている」と答えた生徒80%以上	・講演会を実施する。 ・読書を通して、生徒の興味関心の幅を広げ豊かな心を育む。	A	・講演会や読書会を実施した結果、肯定的に回答した生徒が約93%となった。	A	・カリキュラムの調整が厳しいかと思いますが、今後とも、心の教育に対し積極的取り組みをお願いします。	教務部 図書部
		●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「いじめ重大事案件数:0件 ○「いじめ」防止等について組織的に対応ができて」と回答した生徒の割合が70%以上	・アンケート調査を年2回実施する。 ・アンケート後1週間以内に情報共有し、必要に応じて各分掌が協力して早期に対応する。	A	・生徒、保護者に向けていじめについてのアンケートを年2回実施し結果から気になる項目については関係者で迅速に会議をして未然に対応した。	A	・いじめの事案については、今後とも組織的な対応をしていくことが重要と考えます。	教頭 生徒指導部 各学年
●健康・体づくり		●健康を考えて行動できる能力の育成	○各種健診後の受診率50%以上	・各種健診後の受診勧告を年に2回以上行う。 ・生徒への個別指導、集団指導、再検査。 ・保健だよりを発行する。	C	・受診率は内科(32.1%)、眼科視力(19.6%)、歯科(14%)、耳鼻科聴力(11.4%)であった。健診後及び三者面談(7月・12月)で配付し、Classiやほけんだよりで連絡、対象生徒への保健指導を実施したが受診にはつながらなかった。	B	・各種健診後の受診率が、かなり低いと思われる。学校だけの問題ではないと思うが、指標設定も含め改善が必要ではないか。	保健・厚生部
●業務改善・教職員の働き方改革の推進		●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・定時退勤日の設定 ・学校閉庁日、年休取得推進期間の設定 ・部活動休業日の設定 ・ICT等を活用しての業務負担の軽減に取り組む	C	・前年同期比、時間外在校等時間の平均はやや減少しており一定の成果は見られたものの、年次休暇を取得しづらい状況はほぼ変わっておらず、更なる改善が必要である。	C	・教職員の方々は、日々真摯に取り組まれていると思うが、中でも業務改善のアイデアを出しながら進めてほしい。	教頭
●特別支援教育の充実		○特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上	○「特別支援教育に関する意識が向上した」と回答した教職員の割合70%以上	・特別支援に関する研修会を年1回開催する。	A	・10月に「神経発達症を抱える生徒への対応」について職員研修を行い、アンケートでも意識が向上したと答えた職員が65%であった。	A	・今後とも研修会等を通じて意識の醸成を図っていただきたい。	教育相談部

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組	評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	主な担当者
●…果共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育 ★…唯一無二の誇り高き学校づくり	○生徒支援の充実	○教育相談体制の充実	○ケースミーティングを月に1回開催	管理職・学年主任・保健室・教育相談・生徒指導担当で情報共有し、指導に活かす。	A	・5月から月に1回開催し、関係者で情報共有を図るとともに、支援の方法や役割分担等について検討し、指導に生かした。	A	・情報共有・組織での対応がなされている。	教頭 教育相談部 生徒指導部
	★実践的・体験的な活動の充実	◎★ふるさとへの思いを醸成して、自己と地域の幸福の実現に貢献しようとする姿勢を養う。	◎「ふるさとに誇りや愛着を感じる・どちらかというと感じる」と回答した生徒70%以上 ★郷土の人材等を活用した講演会を、各学年年間1回以上	・「佐賀語り」等を活用した授業に取り組む。 ・郷土の人材等を活用した講演会を実施する。 ・学校行事、部活動、生徒会活動、校外活動への積極的参加を促進し、他者と協力して共通の目標を達成する力を養う。 ・講演会や国際交流を推進し、多様な価値観に触れる機会を設ける。	A	・特別活動等で「佐賀語り」を活用した授業を行ったり、本校OBの先生による講演会を実施した結果、「ふるさとに誇りや愛着を感じる」ことに肯定的に回答した生徒が約84%であった。 ・部活動加入率は96%を超えており、全校生徒のほとんどの生徒が部活動に加入して活動できている。また多くの文化部・運動部が今年度、好成績を収めており、学校の活性化を促進することができた。北高ルーブリックでも生徒の成長を確認することができた。 ・生徒の異文化を受け入れたり理解しようとする態度が育まれた。生徒の言語学習や留学に対する意欲が刺激された。	B	・生徒の自主的取組が拡大することを期待しています。 ・地域と協働する機会を少し増やしていただき、地域とのつながりを強くしていただくことを希望します。	教務部 総務部 生徒指導部(生徒会) 各学年
	★唯一無二の誇り高き学校づくり	★生徒が自主的・自律的に責任を持って行動できるように促す指導	★「自主的、自律的に責任を持って行動できている」と回答している生徒が80%以上	・生徒会生徒を中心に服装や学校生活のあり方について生徒たち自身が主体的に考え判断し、行動できるような雰囲気づくりを行う。	A	・近年は積極的に生徒会に参加し学校活性化に主体的に活動してくれている。「自主的・自律的に責任を持って行動できている」と肯定的に回答した生徒は89%であった。	B	・生徒の意識も向上しており、今後ますます学校全体が活性化されることを期待しています。	生徒指導部 各学年
		★学校魅力の強化と校外へ向けての情報発信	★自分の学校を中学生に勧めることができる生徒の割合90%以上、教職員の割合90%以上 ★県外からの入学者数5人以上	・学校魅力を校内全体で共有し魅力化に向けて取組む体制づくりを行う。 ・HPを更新する。	A	・学校における生徒の様子をタイムリーに発信することができ、生徒の活躍を保護者や関係者に対しておたえすることができ、本校の教育活動に対して理解を深めていく機会となった。 ・自分の学校を中学生に勧めることができると答えた生徒と職員の割合は90%を超えた。 ・県外からの入学者数は16人であった。	B	・今後とも魅力あふれる佐賀北高校となるよう情報発信を積極的に実施していただきたい。	総務部 教務部 主幹

6 総合評価・次年度への展望 (簡潔に)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北高ルーブリックのすべての項目において生徒の成長を確認することができた。学校が育てたい生徒像に向けて、生徒の自主性を促しながら実践的・体験的な活動を充実させることについておおむね目標を達成できたと考えられる。</li> <li>・生徒の進路選択や進路実現に向けて計画的に学習に取り組む姿勢の醸成について、生徒の意識面において向上がみられ目標は達成した。より進路実現に結び付くように支援体制を整えていきたい。</li> <li>・学校の特色である文化・芸術やスポーツにおいて実績を上げることによりそれぞれの分野の普及に貢献し、従来から実施していた地域との交流も継続することができた。</li> </ul>
----------------------	---